

■5月13日

エアアジア(LCC)、トニー・フェルナンデスCEO、中部・仙台発着便-新規路線開拓に関心

エアアジアのトニー・フェルナンデス最高経営責任者(CEO)は11日、「日本市場は有望だ」との認識をあらためて示し、中部国際空港や仙台空港を発着する新規路線の開拓に関心を持っていることを明らかにした。オーストラリアで共同通信などとのインタビューに語った。

産経ニュースによると、

フェルナンデス氏は、中部空港について「低価格旅行に理解がある。LCCターミナルを建設しようとしており、協力的だ」と絶賛。名古屋圏の人口が多く空港の収容能力が大きいことも魅力的だとした。仙台空港については既存路線が少ないことに注目。観光地が豊富な点も指摘した。

一方、全日本空輸とエアアジアが共同出資するエアアジア・ジャパンの業績については「利益は予想を下回っている」と説明。「コスト高」を是正していく必要があるとの考えを示した。

(産経ニュース)5/11

<http://sankei.jp.msn.com/economy/news/130511/biz13051120560008-n1.htm> (->

<http://sankei.jp.msn.com/economy/news/130511/biz13051120560008-n1.htm>)

ベトナム航空、セントレアーハノイ線を増便、

ベトナム航空は8月5日から、中部ーハノイ線を現行の週5便から週6便に増便する。需要の高まりに応えるため。使用機材はエアバスA321型機(ビジネス16席、エコノミー162席)。

同社は、セントレアからホーチミン線を週3便で運航しており、中部からベトナムへの運航便数はこの増便で週9便となる。

また、同社は、7月1日にはダナンーシェムリアップ線も1日1便で開設する計画だ。

(トラベルビジョン)5/12

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=57530> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=57530>)

エアアジア(LCC)傘下、チューン・ホテルズ、那覇に開業、日本初

格安航空会社エアアジア傘下でホテル運営会社チューン・ホテルズの格安ホテルが、近く那覇市に進出する。「チューン」ブランドの日本展開は初。当初7月の開業を計画していたが、数カ月延びる見込みだ。

音楽配信などを手掛けるフォンツ・ホールディングスが、那覇前島らっくすホテルを約10億円で取得し、「チューンホテル那覇」として開設する。ホテルの管理運営は子会社が手掛ける。

フォンツ・ホールディングスは「チューン」ブランドの格安ホテルをチェーン展開するシンガポールの企業と業務提携し、ホテル事業に参入。沖縄を皮切りに今後日本国内で事業拡大を目指す。

チューン・ホテルズは2007年にマレーシアで開業した格安ホテルでベッドとシャワー、トイレなど最低限の基本サービスを提供し、空調やタオルなど追加サービスは課金するというLCC的なビジネスモデルを展開。東南アジアを中心に20軒以上を開業するなど拡大を続けている。

(琉球新報)5/12

<http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-206476-storytopic-4.html> (-> <http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-206476-storytopic-4.html>)

エアアジア・ジャパン(LCC)、4月搭乗率56.4%

エアアジア・ジャパンの内山正明副社長兼CFOは10日の記者会見で、4月の利用率は56.4%で会ったことを明らかにした。

新規就航した中部路線での地方での認知度が低く、需要の取り込まなかったことと、座席管理とイールドマネジメントに改善の余地があると分析した。その為、現在WEBサイトの改善を行っていることや、代理店販売により全体の15～20%程度まで販売比率の拡大を行いたいとした。

また、同副社長は、現在4機のA320型機を今年度中に8機体制にしたい考えを明らかにした。今後も年間4～5機を導入する計画だという。

(日刊航空)5/13

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

成田空港、2012年、ビジネスジェット発着回数655回、発着拠点一羽田へシフト

成田国際空港株式会社(NAA)はこのほど、2012年度における成田空港でのビジネスジェット発着回数が合計655回だったと明らかにした。2011年度実績の454回と比べると、44%増加した。また、2012年3月末に成田空港内でオープンしたビジネスジェット専用ターミナル施設の利用は、655回のうち252回だった。

ただ、首都圏におけるビジネスジェット機の発着拠点はここ最近、成田空港から羽田空港へとシフトしている現状がある。特に国際間運航は、かつて成田と羽田で7対3の比率だったものが、3対7に逆転している。

(日刊航空)5/13

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

全日空、羽田発着広州・上海線発着枠、国内線へ充当

全日空はこのほど、羽田空港からの広州線と上海・浦東線について、2013年夏季スケジュール中は就航せず、両路線のための羽田発着枠を国内線での増便に充てることを明らかにした。

現在のダイヤに引き続き、中国線増便分の羽田枠1日4便分を国内線に振り向け、羽田—神戸・高知・小松線などの増便を継続する。

尖閣諸島問題の影響による日中関係の悪化による渡航需要の冷え込みと、中国当局との調整が難航したことが就航延期の要因とされている。

(日刊航空)5/13

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

米ラフード運輸長官、管制官らの一時帰休など撤回

(時事ドットコムによると)

ラフード米運輸長官は10日、強制歳出削減の発動による予算不足を受けた航空管制官らの一時帰休措置や空港管制塔の閉鎖計画を撤回すると発表した。先に運輸長官に管制官の人件費などを別の予算項目から充当する権限を与える法律が成立したのに伴う措置。ニューヨークなど主要空港を中心に欠航や遅延などが生じていた空の混乱は回避される見通しとなった。

(時事ドットコム)5/11

http://www.jiji.com/jc/c?g=int_30&k=2013051100070 (-> http://www.jiji.com/jc/c?g=int_30&k=2013051100070)

マリンド・エアウェイズ(LCC)、クアラルンプールからボルネオ3都市新規開設

マレーシア・インドネシア合併の新規参入航空会社(ハイブリッドLCC)のマリンド・エアウェイズは、クアラルンプールとボルネオの3都市を結ぶ路線を6月中に就航すると発表した。

同社は、現在クアラルンプール-クチン、コタキナバルの2路線を運航。

新規乗り入れ先は、シブ、ミリ、タワウで、就航日はKL-シブは6月11日、KL-ミリは6月14日、KL-タワウは6月26日となっている。使用機材はボーイング737-900ER型機(エコノミークラス168席、ビジネスクラスが12席)。

下半期にはKLIA新格安航空ターミナル(LCCT)「KLIA2」から日本の北部、中国、韓国、インドネシアへの運航を開始も表明している。

(レスポンス)5/11

<http://response.jp/article/2013/05/11/197699.html> (-> <http://response.jp/article/2013/05/11/197699.html>)